

資料編

2 小規模校・大規模校におけるメリット・デメリット

第 1 今治市の小中学校の適正規模

1 小規模校におけるメリット・デメリット（課題の抽出）

（1）教育（学習）上の視点（子どもたちにとって）

	メリット	デメリット
学習に関する点	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒・教員・保護者を含めて互いの結びつきが深くなり、児童生徒の個性や能力に応じたきめ細やかな指導が受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数の為、学習面においても評価が固定化されやすく学習意欲や競争心に問題が生じやすい。 運動会や学芸発表会などの学校行事においては、少人数のため種目や演目に限界があり、行事としてのダイナミックさに欠ける。 少人数のため、友人の様々な考え方に触れ、自他を比較し、自分の考えを見つめなおし、考えを深めたり高めたりする個と集団の学びあいが十分に行なわれない。 1学年1学級の場合などは、卒業するまで同一学級で過ごすため、子どもの役割が固定しがちで、学習活動など、学校生活に活気が生まれにくい場合がある。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒・教員・保護者を含めて互いの結びつきが深くなり家庭的な人間関係を形成しやすい。 他学年との交流ができやすいため、互いを思いやる気持ちが育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の交流が限られたものになるため、交友関係が固定され、適度な刺激や切磋琢磨が少ない。 小規模化が進むと、効果的なクラス替ができない為、生活面において人間関係が固定化し、友人が増えないなど自己形成に必要な集団生活が十分にできない。 友人関係にトラブルがおきると後々まで影響が残る。 少人数の教員とのかかわりに限られるため、多様な価値観が育ちにくい。

	メリット	デメリット
施設 ・ 教材に関する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数のため、教材・教具の一人あたりの割り当てが多い。 ・ 体育館、特別教室等を必要に応じて十分利用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デメリットについて、特に意見はなかった。
クラブ活動 ・ 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動、部活動の活躍の場が得られやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数のため、子供たちの興味、関心に対応できる多様なクラブ活動、部活動が成立しない。

(2) 学校運営上の視点 (教員にとって)

	メリット	デメリット
学習指導に関する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童・生徒の個性や特性に対応したきめ細かい指導をすることができる。 ・ 教材・教具を十分活用した学習方法を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員数が少ないため、教員同士が指導の面で相談を行なうことや教科研究を十分に行なうことができない。中学校では、教科担任を専属で配置できない教科が発生するなど教育活動での課題が生じる。 ・ 複数の教員の目で多様に子どもをとらえることができないため、特性等の把握が一面的になりやすく、児童生徒の新しい可能性や能力の発揮を阻害する場合がある。 ・ 児童生徒の様々な現われを多面的に分析した生徒指導ができにくく、画一的な指導になってしまう。
組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意思疎通がしやすく、全校一体となった指導がしやすい。 ・ 学校全体の業務を考えての指導協力体制がとりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務分掌(事務処理)の内容や量は、学校の規模による差異が少ないため、少数教員の一人当りの負担が増える。 ・ 教科担任制においては、担当教員が多学年の授業を受け持つことになり、教材研究等が困難になりがちである。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に子どもの把握がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校などでは、教員数が少ないため、登下校時の安全指導等に支障が生じる場合がある。

2 大規模校におけるメリット・デメリット（課題の抽出）

（1）教育（学習）上の視点（子どもたちにとって）

	メリット	デメリット
学習に関する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活気があり、学習意欲や競争心を活発にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当りの活躍する場や機会が少ないこともある。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様なクラス替ができることによって新たな価値観や人間関係の形成に寄与する。 ・ 人間関係が固定せず、新たな友達を見つけることができる。また様々な人間関係の中で、新たな自分を発揮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数が多すぎるため、集団に対する帰属意識や連帯感、同窓意識等が希薄になりやすい。 ・ 目立ちにくい児童・生徒が出てしまうことがある。 ・ 同学年の結びつきが主となり、異学年との関わりがもちにくい。
施設・教材に関する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ メリットについて、特に意見はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設利用等に制約が生じる場合がある。 ・ クラス数の増大による施設面の制約により、カリキュラムの設定や学校行事の運営が難しくなる場合がある。

	メリット	デメリット
クラブ活動・部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動、部活動において選択肢が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当りの活躍の場や機会が少ないこともある。

(2) 学校運営上の視点 (教員にとって)

	メリット	デメリット
学習指導に関する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員数が多いため、教員同士が指導の面で相談を行なうことや、教科研究を十分に行なうことができる。 ・ 学年の教員だけで、様々な学習に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の習熟度や多様な個性、特性等に対応した指導がしにくい。
組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な個性や特性を持った教員を学年に配置することができる。 ・ 校務分掌の一人当りの負担が軽減されるため、教科研究等に十分時間をさくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師間の意思疎通ができにくく、学年内での対応が多くなる傾向がある。そのため、学校としての指導の統一性を欠く場合がある。 ・ 生活や進路などに関する生徒指導の面で個々の生徒の状況に応じた対応が求められる中学校などでは、十分に目が行き届きづらい。

	メリット	デメリット
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ メリットについて、特に意見はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に子どもの把握等に注意が必要。

3 その他

学校運営上の視点 - 2 （保護者にとって）

	メリット	デメリット
PTA活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAの活動については、学校毎の雰囲気・父兄の問題意識等によるところが大きく、学校規模との関係性は小さい。 	